

# 奥日光 柳沢川右俣～左俣 2014/07/26

## メンバー（落合 CL, 若林 SL, 久我, 小嶋, 谷内, 萩原）

赤沼車庫 5：30 発→西ノ湖入口 5：52 着→入渓点 6：45→二俣 8：15→1,950m 付近 10：20→ 左俣右沢枝沢下降点 10：45→二俣 12：20→赤岩滝→西ノ湖入口 15：15 着 15：44 発→赤沼車庫 16：10

今年は梅雨らしい天気が続き、6月の初めから海の日の3連休までは天候不順の影響もあり計画を立てても悉く流れてしまい、山に行けず心身ともにジメジメした日々が続いた。

梅雨明け最初の週末、6名で奥日光の柳沢川へ沢登りに行ってきました。

柳沢川という沢は馴染みが薄いかもしれません、奥日光の最奥部・錫ヶ岳付近の東側に源を発する沢で、中禅寺湖に水を集める川のひとつ、その水の流れは華厳の滝～大谷川～鬼怒川となる、、と言えば少しは親しみを持って頂けるだろうか。

登山口（入渓点）までのアプローチが長いので、赤沼車庫から奥日光低公害バスを利用する。

日帰りで行く場合はちと世話しない、バス便（西ノ湖入口に停まる便）は朝5：30発のみである。

時間に制約されずに登るならMTBでのアプローチも便利と思われる。

寝坊と忘れ物のプレッシャーを感じながら予定通り赤沼車庫5：30発のバスに乗車、朝霧が掛かる小田代ヶ原は幻想的で写真家がたくさんシャッターを切っていた。

弓張峠を過ぎると森の中で小熊がハシャギまわっている姿を発見、窓越しなので緊迫感は無いがこれから同じ森の中を歩くことを考えると絶対遭遇したくない。。

20分程揺られて西ノ湖入口前で下車、林道から赤岩滝まで歩道が付いているので踏み後は明瞭、西ノ湖入口から入渓点までは45分程度。

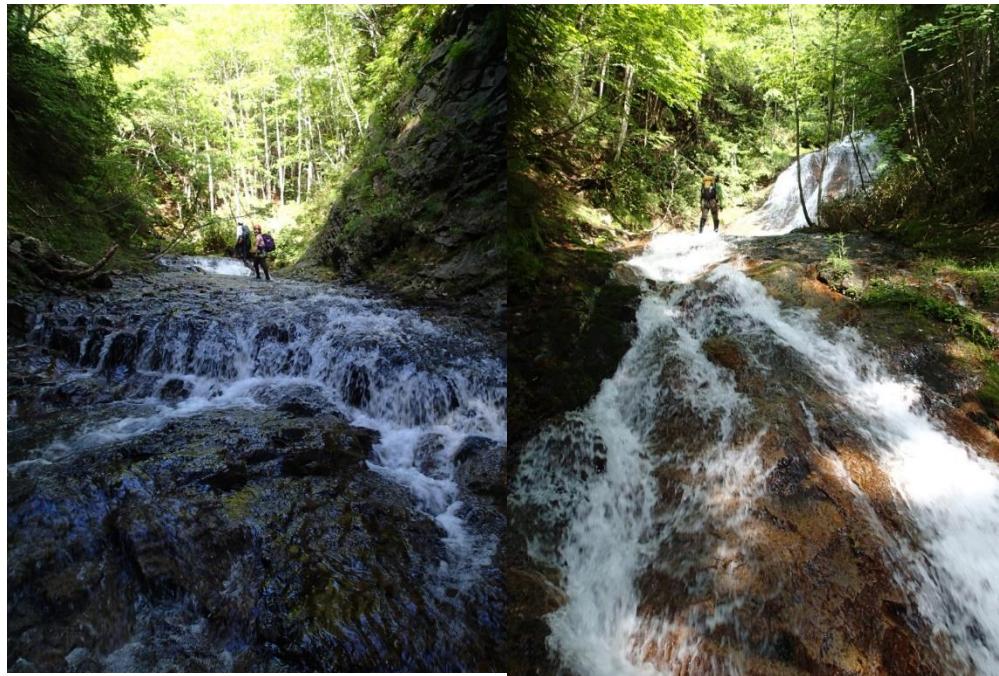
赤岩沢出合で本格的に沢らしい形相となる、下部は最近のものと思われる土砂崩れが所々あって様子が変わっている部分があり少々残念。。



二俣まではキレイなナメが印象的、右俣の簾状滝が連続するところがこの沢のハイライトであった。

6名での山行、右俣でロープを数回出したこともあり上部は予定より少し時間が掛かってしまう。

いかに確実に効率よく通過するという意味では少し反省点もあった、パーティーの技量・編成、状況判断、現場で学ばなければならないことはたくさんある。





2段 15m の黒岩滝



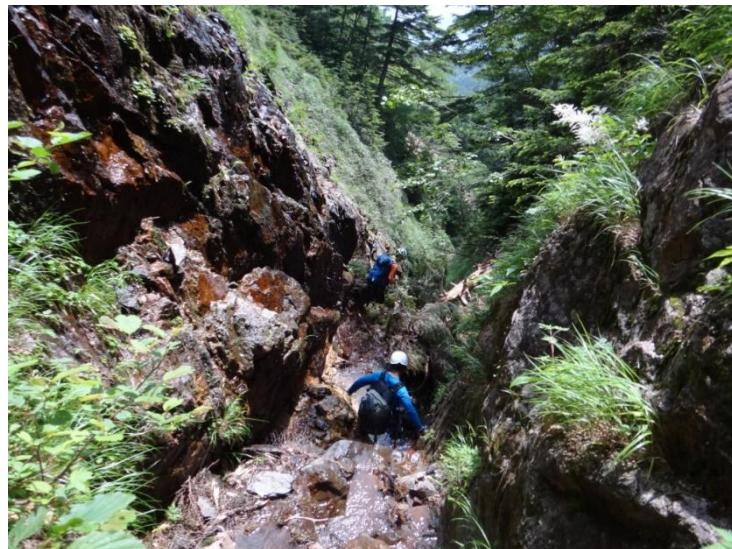
最後の 15m 簾状滝は若林さんがリード、見た目は簡単だがホールドはヌメヌメ

帰りは赤岩滝を見物して帰ったかったので、2,000m 下で笹藪が薄い部分の尾根を横断し、左俣右沢の枝沢を下降した。

尾根の横断は藪次第で変わると思われるが、私たちが歩いた部分は容易に横断出来た。

しかし、左俣の右沢には中腹に急な崖があるので読図をして下降点を誤らなければ稜線に出なくても特に問題なく下降に移れると思われる。

左俣は全体的にはナメが多く下降向きの沢ではあったが、2回懸垂下降して二俣に戻った。



最後は以前から登りたいと思っていた赤岩滝を偵察、奥日光最大の滝と呼ばれているのも納得だ。



この滝は昔、右壁が栃木国体の岩登り会場にもなったことがあるそうで、実際にみると登攀意欲を掻き立てられる滝だった。

しかし、よく観察するとルートを選ばなければ否が応にも登れてしまう滝であるようにも思えた。

下部は容易、上部は垂直に近く本格的な登攀になりそうだ。

大滝登攀という意味では出来るだけ水流に近い美しいラインを引いて登りたいものだが、結局は自己満足の世界である。

初見で楽しむ沢登りという意味では、赤岩滝は偵察してしまったことに少し葛藤してしまった部分もあった。

柳沢川は日帰りや1泊では右俣遡行～左俣下降、赤岩滝登攀を絡めた山行が一般的であると思うが、右俣から稜線に出て足尾や白根方面に抜けての継続遡下降にも興味が湧いた。

道が無く自然も手つかず、きっと自分たちだけの沢登りの形が約束されることだろう。

この日は北関東でも猛暑日だったが、沢下降はこんな暑い日でも身体がオーバーヒートせずに下山出来るのが嬉しい。

奥日光に来るといつも立ち寄る赤沼茶屋の濃厚ソフトクリーム、夏の日差しを浴びながら食べるとより一層美味しい夏の一日でした。

(記録 落合)